



2021年まで活躍した鳥ロボット

歴史劇場の改修

横浜市歴史博物館の開館以来、常設展示室の中でも、横浜3万年の歴史を伝える「歴史劇場」は、社会科見学の子供達をはじめ来館者に人気のコンテンツでした。今ではすっかりおなじみの当館のマスコットキャラクターレックルですが、もともとは歴史劇場の案内役として劇場中央の舞台に据え付けられた、オナガドリをモチーフとした鳥形ロボットです。

機械仕掛けの舞台と映像作品を組み合わせた歴史劇場では、長い間みなさんを横浜の歴史の旅に案内するため、定期的なメンテナンスを続けてきましたが、近年は故障が多くなり上映ができない状態が続いておりました。

そこで開館30周年を迎える2024年2月~3月にかけて、劇場の改修工事をおこないました。これによって残念ながら鳥ロボットは取り外すこととなり、レックルの勇姿を見ることはできなくなりましたが、長年にわたって活躍したちょっとリアルなその姿は、多くの皆さんの記憶の中に残っているのではないのでしょうか？

レックル不在となった歴史劇場ですが、今後はマルチシアターとしてさまざまな番組が放映できるようになりました。また、定員80人ほどの空間は、ステージと客席が近く、歴史未来フェスなどではイベント会場としても使用しています。新たな形で歴史劇場が活用されることを鳥ロボットのレックルもきっと願っているのではないのでしょうか。

資料編



30年のあゆみ

横浜市歴史博物館の設立は、1965年に打ち出された横浜市六大事業の一つである港北ニュータウン建設事業にともなう横浜市北部地域(旧港北区の北西部、旧緑区の東部および川崎市境に接する地域)の再開発に端を発する。

全国的には、高度経済成長期に突入する時期であり、横浜市は「横浜国際港都建設総合計画中期計画(1968-73年)」を出し、「港北ニュータウン建設」を含む「都心部強化」、「金沢地先埋立」、「市営地下鉄建設」、「高速道路網建設」、「横浜ベイブリッジ建設」といった大規模再開発計画に着手していく時期であった。

昭和40年代、市内の人口は年間10万人近く増加し、1968年に200万人、1974年には250万人を超え日本の大都市となっていった。また1969年10月、行政区再編制により南区から港南区、保土ヶ谷区から旭区、港北区から緑区、戸塚区から瀬谷区が誕生し計14区となり、東京のベッドタウンとして、谷戸の景観広がる市域内陸部は人口急増を補う宅地造成開発地となり耕地や山林が急速な勢いで造成・開発され、かつての横浜の農山村、漁村の景観が失われるなど劇的な変化をみせていった。

都市開発から転じて、文化行政に目を向けると、高度経済成長期などを背景として文化財保護調査の動きが活発化し、1969年5月、横浜市教育委員会社会教育課に文化財係が新設され、同年6月には横浜市埋蔵文化財委員会、9月に横浜市文化財保護審議会が設置され市域の文化財行政を担う基盤として機能していくこととなる。造成工事の本格化に伴い、1970年12月「港北ニュータウン埋蔵文化財調査団」の説立・発掘調査がはじめられた。加えて、この地域に残る民俗や古民家についての調査も開始され、調査の進展とともに考古資料館および歴史博物館設立の市民要望が強まり、記録を保存し残す必要性が文化財保護審議会を中心に提唱された。

横浜市文化財係の新設による一連の文化財行政の動きは、急激な都市変化に伴い、失われてゆく情景に包含される歴史を補完しようとする自然な動きともいえるが、この時期国で発足、設置された文化庁および文化財保護審議会(1968年)という文化行政の大きなパラダイムの一潮流とみなすこともできるだろう。さらに全国各地でも地方自治体に文化財とつく部局課が新設され、博物館、考古館、民俗資料館、美術館といったミュージアム施設の建設が積極的に行われた時期であった。

そして1981年「よこはま21世紀プラン」(第1次実施計画)による考古資料館構想、1985年「よこはま21世紀プラン」(第2次実施計画)で歴史博物館構想が打ち出されることで、いよいよ博物館建設は現実味を帯びてくる。大塚・歳勝土遺跡が国指定史跡に指定(1986年)された翌々年、横浜市歴史博物館(仮称)建設基本計画を策定し開館へ向けての建築・展示などの準備が具体的に進められていった。1992年10月1日、財団法人横浜市ふるさと歴史財団が発足し、博物館の開設準備にあたったほか、三殿台考古館、八聖殿郷土資料館、獅子ヶ谷横溝屋敷、埋蔵文化財センターの管理運営に携わっていく。1994年3月横浜市歴史博物館条例が制定され、1995年1月31日、横浜市歴史博物館は開館した。同年より横浜市ふるさと歴史財団が管理運営を担っている。

開館後、博物館と一体的に活用される施設として、1996年には大塚・歳勝土遺跡公園の開園、1998年には、横浜市ふるさと歴史財団と、横浜開港資料館の管理運営を担っていた横浜開港資料普及協会と統合、さらに2003年6月地方自治法の一部改正(同年9月施行)によって指定管理者制度が導入されて以降、2006年から横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者となった。その後2011年に公益財団法人として認可され、2016年から博物館に加え、横浜開港資料館、横浜市都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館、横浜市三殿台考古館の10年、5館一括の指定管理受託運営に加え

て、横浜市埋蔵文化財センター、市史資料室(2024年度まで)の管理運営等業務や史跡等管理業務、そしてスポット的に市・区から受託した各種事業を行っている。なお2025年度は指定管理第3期10年の最終年度となっている。

当館では開館以来、横浜の歴史・文化、文化財を守り継承していく施設として、現在に至るまで「市民協働のありかた」、「地域との関係」、「賑わいの創出」、「市民サービス」、「外部との連携」を指針に博物館活動を行っている。当館開館以前より、すでに横浜市内で博物館活動を展開していた既存の館との棲み分けを図る意図から、開港期以前の歴史を取り扱うこととし、条例には基本理念に「横浜に生きた人々の生活の歴史」を掲げ、野外施設を含め、館内展示と普及活動が連携する活動をおこなってきた。

以上のような活動指針・基本理念のもと2025年1月31日に開館30周年を迎え、大塚・歳勝土遺跡公園も2026年3月23日で開園30周年を迎えることとなった。

博物館にはさまざまな活動があるが、企画展は開館以来194本を実施し、本展「開館30周年記念特別展「横浜の文化財 Yokohama Heritage-まもり伝える地域の記憶-Part1 修復」(会期:2025年4月26日~6月1日)」で195本目(準備室時代は除く)となる。準備室時代には1993年「財団収蔵資料展」(横浜市民ギャラリー〔教育文化センター〕)、1994年プレ企画展「横浜の歴史をたずねて」(横浜高島屋)が開催されている。設立背景から考古主体の館であり、さらに民俗、歴史系展示を中心に実施されてきた。開館初年は「灯火具のあゆみ」、「弥生の“いくさ”と環濠集落-大塚・歳勝土遺跡の時代-」、翌年開催された「中世の世界に誘う仏像院派仏師の系譜と造像」は、その後美術担当学芸員が当館に着任する2019年まで主体的に美術史をテーマとする展示がなかった点において記念碑的な展示であった。加えて、継続的な横浜市文化財調査の成果を、2000年より横浜市指定・登録文化財展として現在まで開催していることを付言しておく。

※開館30周年記念特別展図録「横浜の文化財 Yokohama Heritage-まもり伝える地域の記憶-Part1 修復」のうち、総論「モノのありかた-30年のあゆみと行末 横浜市歴史博物館開館記念展によせて」吉井大門 pp.4-6より抜粋(一部加筆)しました。



開館30周年記念特別展Part1、Part2 図録表紙

沿革

1981年 — 2025年

- 昭和56年(1981) 12月 「よこはま21世紀プラン」(第1次実施計画)に考古資料館構想が出る。
- 昭和60年(1985) 5月 「よこはま21世紀プラン」(第2次実施計画)に歴史博物館構想が出る。
- 昭和61年(1986) 1月 大塚・歳勝土遺跡が国指定史跡となる。
- 平成元年(1989) 3月 博物館の基本計画を策定
- 平成4年(1992) 2月 博物館の建設が起工
- 9月 横浜市歴史博物館や三殿台考古館、八聖殿郷土資料館等を管理運営する団体として、財団法人横浜市ふるさと歴史財団発足(理事長石原俊)、埋蔵文化財センターを統合。
- 平成6年(1994) 2月 博物館の建物が竣工
- 3月 横浜市歴史博物館設置条例制定
- 平成7年(1995) 1月 **横浜市歴史博物館開館(31日)**
- 平成8年(1996) 3月 大塚・歳勝土遺跡公園開園(23日)
- 平成9年(1997) 3月 都筑民家園(旧長沢家住宅)一般公開(29日)
- 平成10年(1998) 10月 横浜開港資料館の管理運営にあたってきた財団法人横浜開港資料普及協会と、財団法人横浜市ふるさと歴史財団が統合。
- 平成18年(2006) 4月 指定管理者制度が導入され、財団法人横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として運営にあたる。
- 平成23年(2011) 6月 財団法人横浜市ふるさと歴史財団が公益法人として認可され、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団となる。
- 平成27年(2015) 1月 開館20周年
- 4月 ホームページリニューアル
- 令和元年(2019) 8月 長期休館(大規模修繕工事2019年8月~2020年3月末)
- 令和2年(2020) 4月 臨時休館(新型コロナウイルス感染症感染拡大防止2020年4月~5月末)
- 令和7年(2025) 1月 **開館30周年**

歴代館長



【初代館長】1995.1-2004.3
平野邦雄
Hirano Kunio
・2005年横浜文化賞受賞



【二代館長】2004.4-2011.3
高村直助
Takamura Naosuke
・2004年横浜文化賞受賞



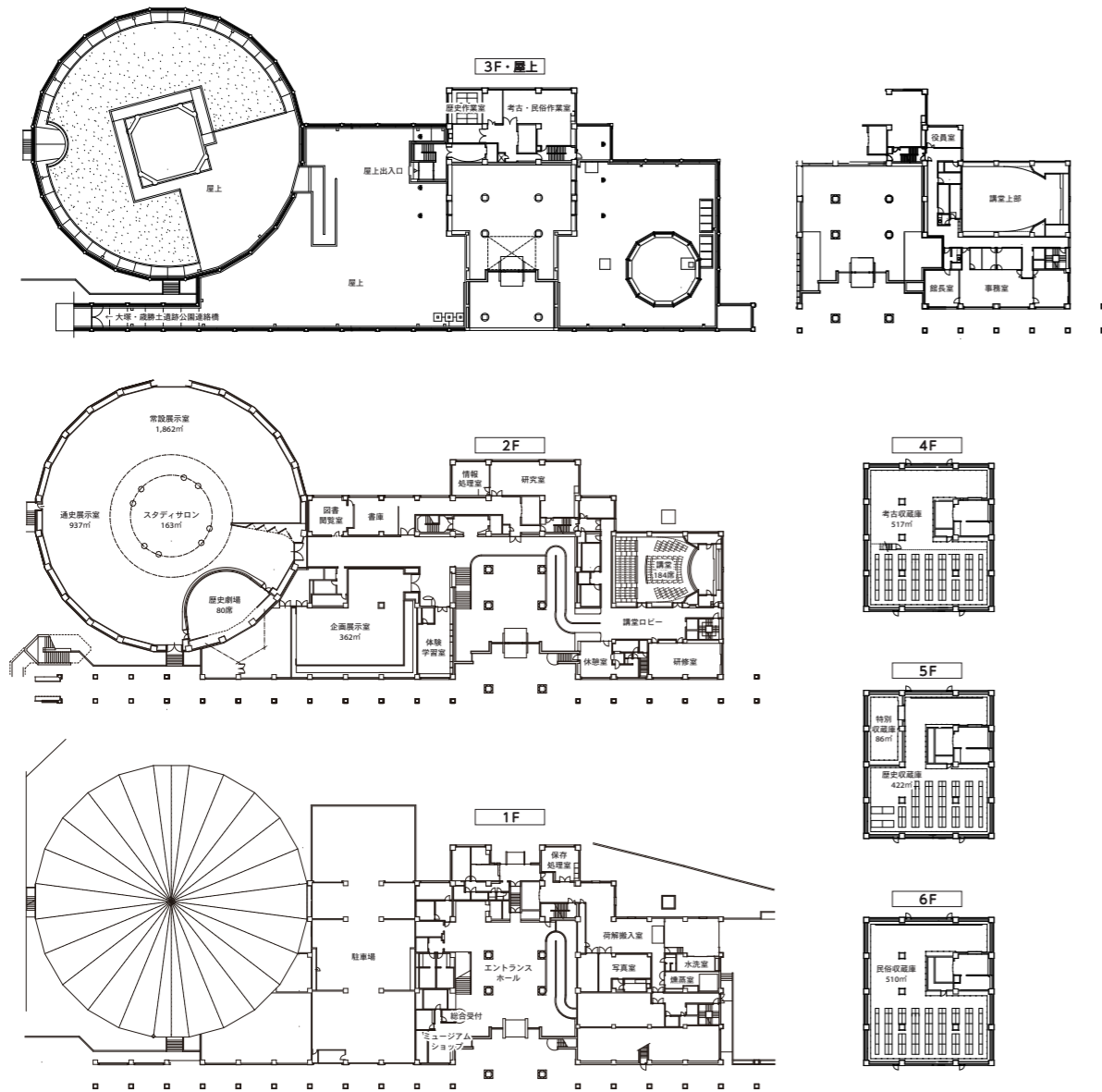
【三代館長】2011.7-2021.3
鈴木靖民
Suzuki Yasutami
・2021年横浜文化賞受賞



【四代館長】2021.4-
佐藤信
Sato Makoto

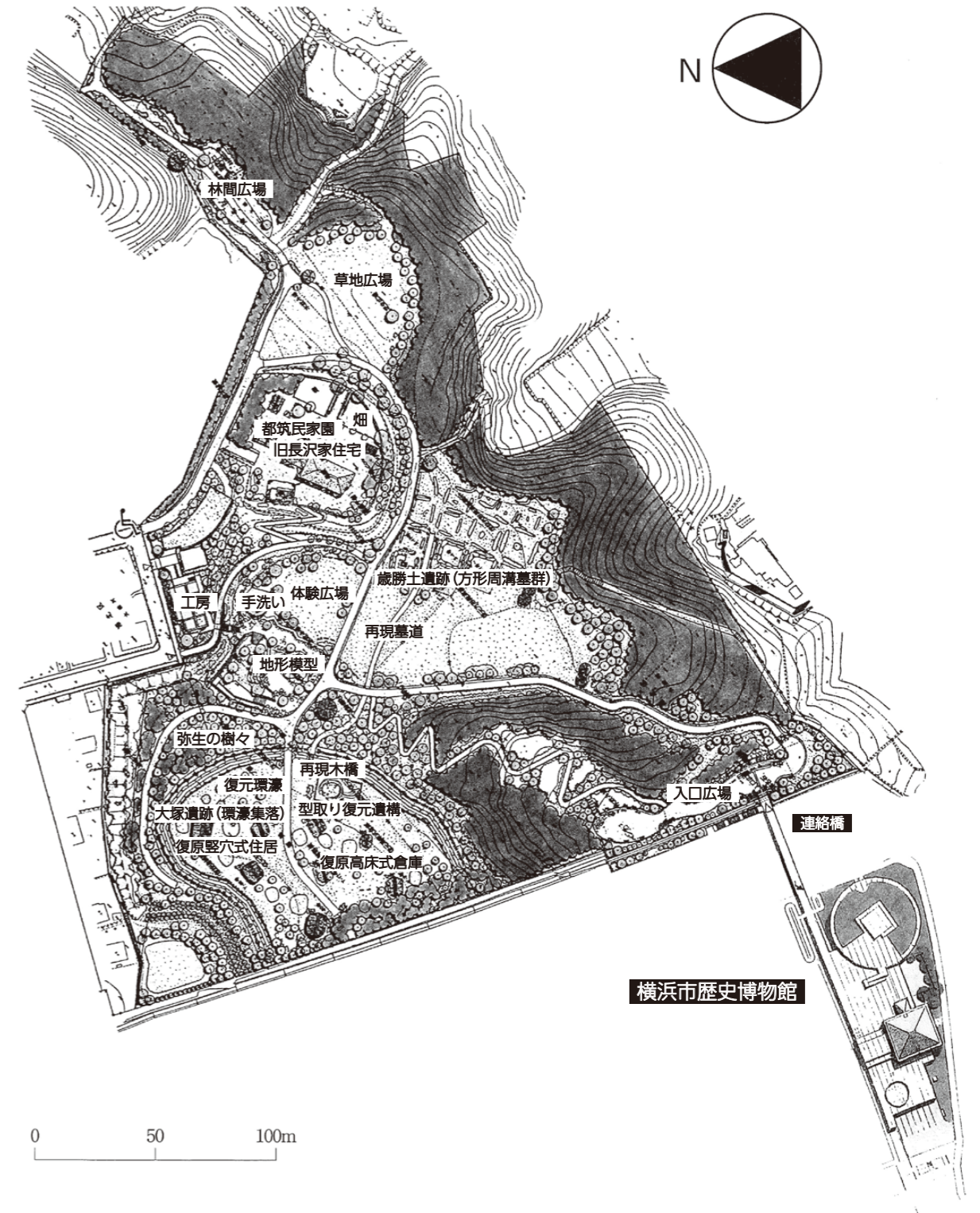
建物・施設概要

所在地	横浜市都筑区中川中央1-18-1	事業費	平成4年度 工事継続
面積	敷地面積 7,278.52㎡	設備	平成5年度 工事竣工(平成6年2月)
	延床面積 9,269㎡ 地上6階地下1階	建築設計	平成6年度 乾燥期間(6か月)
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造	設 備	93億円(建築工事費、展示制作費等)
工期	平成元年度 基本設計	設 備	駐車場
	平成2年度 実施設計		エレベーター3基
	平成3年度 建築工事着手	建築設計	(株)大高建築設計事務所



大塚・歳勝土遺跡公園

所在地	横浜市都筑区大塚西1番
総面積	約6.6ha ・大塚・歳勝土遺跡 約32,882㎡ ・その他 約33,118㎡

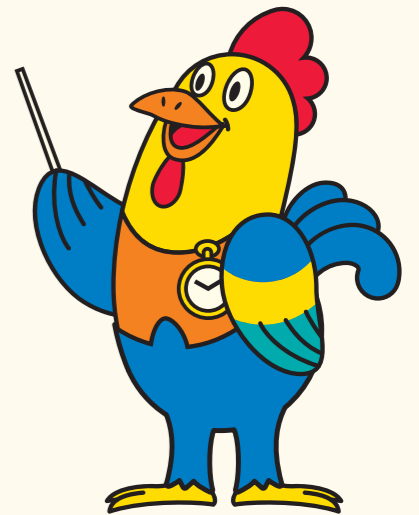


統計(年度別利用者数)

年度	開館日数	合計 A+B+Q	館内計 A D+G+J~P	野外計 B N+O	常設企画 合計 C D+G	常設展示室			企画展示室		
						合計 D E+F	有料 E	無料 F	合計 G H+I	有料 H	無料 I
						H6 1994	5	105,013	105,013	0	66,438
H7 1995	302	293,384	293,384	0	185,500	121,362	68,917	52,445	64,138	27,996	36,142
H8 1996	298	340,761	246,694	94,067	167,096	101,932	52,361	49,571	65,164	21,311	43,853
H9 1997	299	326,487	237,310	89,177	137,910	86,089	41,739	44,350	51,821	18,023	33,798
H10 1998	298	299,522	216,508	83,014	126,451	80,079	37,631	42,448	46,372	20,371	26,001
H11 1999	300	320,897	238,124	82,773	145,791	84,709	39,456	45,253	61,082	26,419	34,663
H12 2000	301	283,080	219,383	63,697	126,943	73,665	36,464	37,201	53,278	25,877	27,401
H13 2001	303	237,491	172,507	64,984	111,341	72,052	32,749	39,303	39,289	16,752	22,537
H14 2002	304	283,191	220,630	62,561	123,748	74,131	32,471	41,660	49,617	19,696	29,921
H15 2003	304	281,173	215,942	65,231	127,349	74,662	32,275	42,387	52,687	20,190	32,497
H16 2004	304	270,532	213,861	56,671	122,621	74,002	30,314	43,688	48,619	18,091	30,528
H17 2005	306	269,745	204,321	65,424	120,263	70,478	27,798	42,680	49,785	14,504	35,281
H18 2006	309	347,348	283,694	63,654	167,557	90,567	39,422	51,145	76,990	30,671	46,319
H19 2007	309	292,174	232,339	59,835	132,404	76,080	31,837	44,243	56,324	19,900	36,424
H20 2008	311	292,863	231,167	61,696	131,128	76,478	29,603	46,875	54,650	14,790	39,860
H21 2009	311	281,391	218,076	63,315	122,936	74,045	25,430	48,615	48,891	10,700	38,191
H22 2010	305	280,333	221,159	59,174	122,942	70,501	23,633	46,868	52,441	13,490	38,951
H23 2011	311	293,773	230,658	57,337	128,040	74,100	24,062	50,038	53,940	9,159	44,781
H24 2012	310	283,427	220,406	56,428	126,404	68,457	22,437	46,020	57,947	14,848	43,099
H25 2013	305	283,717	222,932	53,886	128,944	72,341	22,493	49,848	56,603	10,820	45,783
H26 2014	311	280,110	216,269	54,259	127,893	67,192	19,271	47,921	60,701	14,998	45,703
H27 2015	313	283,669	222,687	57,266	131,096	69,148	20,158	48,990	61,948	13,889	48,059
H28 2016	311	298,341	233,850	62,155	137,050	69,638	19,396	50,242	67,412	10,026	57,386
H29 2017	310	279,825	220,420	57,732	138,745	71,046	19,169	51,877	67,699	14,515	53,184
H30 2018	310	246,370	186,319	57,581	130,521	68,354	17,830	50,524	62,167	13,559	48,608
H31 2019	109	141,993	89,296	52,604	66,062	35,936	8,309	27,627	30,126	5,826	24,300
R2 2020	254	105,387	64,794	40,593	56,343	27,229	16,474	10,755	29,114	19,543	9,571
R3 2021	306	117,394	76,083	40,790	63,156	35,379	20,315	15,064	27,777	14,997	12,780
R4 2022	306	171,516	130,550	40,966	96,927	54,099	29,418	24,681	42,828	20,159	22,669
R5 2023	208	140,812	100,898	37,973	61,117	34,428	14,180	20,248	26,689	8,871	17,818
R6 2024	305	203,571	162,155	39,997	92,258	52,205	21,694	30,511	40,053	14,978	25,075
R7 2025	242	163,578	124,226	38,633	77,464	43,376	16,478	26,898	34,088	10,687	23,401
合計	9,126	8,098,868	6,271,655	1,783,473	3,800,438	2,184,783	902,842	1,281,941	1,615,655	518,592	1,097,063

れきし工房 (体験学習室)	図書 閲覧室	講堂	研究室	大塚	工房	エントランス	館外普及
J	K	L	M	N	O	P	Q
23,242	7,910	6,362	1,061	-	-	-	-
81,635	17,624	5,976	2,649	-	-	-	-
61,096	14,290	1,260	2,952	94,067	-	-	-
67,846	15,383	10,711	5,460	84,868	4,309	-	-
58,607	15,842	9,095	6,513	77,863	5,151	-	-
65,791	15,331	3,641	7,570	78,764	4,009	-	-
66,977	14,396	4,021	7,046	58,166	5,531	-	-
35,883	12,756	5,783	6,744	59,762	5,222	-	-
68,884	14,082	7,361	6,555	57,315	5,246	-	-
60,730	14,369	7,466	6,028	58,539	6,692	-	-
60,901	14,732	7,806	7,801	50,508	6,163	-	-
61,709	10,278	6,446	5,625	59,154	6,270	-	-
80,692	10,569	17,957	6,919	57,349	6,305	-	-
66,011	9,774	15,773	8,377	55,338	4,497	-	-
58,231	8,131	26,152	7,525	56,203	5,493	-	-
55,442	7,520	25,120	7,058	58,496	4,819	-	-
57,796	7,871	25,219	7,331	52,775	6,399	-	-
62,074	8,943	23,636	7,965	52,727	4,610	-	5,778
57,285	6,394	23,023	7,300	50,435	5,993	-	6,593
61,663	7,471	17,960	6,894	49,311	4,575	-	6,899
55,925	6,082	18,727	7,642	49,194	5,065	-	9,582
56,297	6,177	21,264	7,853	52,104	5,162	-	3,716
55,070	9,290	23,604	8,836	58,820	3,335	-	2,336
43,912	7,401	24,726	5,636	55,402	2,330	-	1,673
21,054	7,193	20,980	6,571	55,081	2,500	-	2,470
592	4,287	15,930	2,425	47,999	4,605	1,654	93
17	4,528	2,527	368	39,057	1,536	1,011	0
55	5,326	4,937	1,509	39,142	1,648	1,100	521
16,629	7,487	5,134	2,239	37,081	3,885	2,134	0
26,315	4,406	4,844	3,092	32,054	5,919	1,124	1,941
50,542	5,968	7,506	3,182	34,127	5,870	2,699	1,419
32,680	4,456	5,523	2,771	30,994	7,639	1,332	719
1,571,583	306,267	406,470	177,497	1,642,695	140,778	11,054	43,740

たくさんの方が、
横浜市歴史博物館を
利用してくれたんだね!



まちと歴史博物館の移り変わり 写真 吉川久雄

横浜市歴史博物館がセンター北の地に開館して30年がたちました。観覧車、個性豊かなショッピングモールなど、センター北の街へのイメージは人それぞれだと思います。

1995年の博物館開館に先立つ1993年にセンター北駅は開業しました。90年代の街や駅をご存じの方は、「駅から博物館が見えた」「駅前にコンビニが1軒しかなかった」とおっしゃいます。1998年の駅ビルあいたいの開業以降、街の様子が大きく変わっていったのは、肌感覚でおよそ2000年代に入ってからでしょうか。今や街のランドマークとなったモザイクモール港北の観覧車は2000年3月に完成しています。2007年にはノースポートモールや港北みなもが、2008年にはルララこうほくが相次いで開業しました。また、2008年には横浜市営地下鉄グリーンラインも開業しています。

ニュータウンでありながら、緑道でつながる公園やこうした多くの商業施設を魅力に感じ、近年この街で生活を始められた方もたくさんいらっしゃいます。商業地が集まるセンター北だけでなく、区役所や図書館、消防、警察といった公共施設があつまるセンター南にも隣接した都筑区の人口は、2000年には14万8千人だったものが、2024年には21万5千人と、少子高齢化が叫ばれる現在においても増加しています。

横浜市歴史博物館は、都筑区の文化施設の中核としてそんな街を見守り続けてきました。ここでは、博物館周辺の街のうつりかわりを秘蔵の記録写真でご紹介いたします。都筑区やセンター北がふるさとの皆さんにとって、懐かしいと思うセンター北はいつの頃でしょうか。



1997年のセンター北 駅ビルあいたいは建設中



今では歴史博物館脇の交差点を見守る都筑まもる君ですが、かつては区役所通りにありました。1996年に茅ヶ崎中央38に設置され、2000年に同56-1へ移転し、2020年に現在の位置へと移動しています。



茅ヶ崎中央公園から都筑区役所方面(都筑まもるくんは左手)



2005年



2007年



2018年



博物館屋上から歴史博物館脇交差点方面

2000年



2018年



博物館屋上から大塚交差点

2000年



2018年



博物館屋上からセンター北駅方面

2000年



2018年



博物館屋上から中川駅方面

2000年



2018年



歴博通り開通前後
(歴史博物館脇交差点からセンター南方面)

2000年 >>> 2005年



>>> 2018年



センター北駅前芝生広場からセンター南方面



博物館からセンター北駅方面のグリーンライン高架



2001年

2018年



2001年

2018年



● 執筆・協力者 ●

(敬称略 50音順)

荒井孝則	有好まなみ	安藤広道	井上攻
小倉淳一	長田文美	片山昌二	刈田均
菊池由紀子	岸上興一郎	木村格	木村玲子
清瀬喜美	久保暢子	慶徳正好	小林紀子
佐伯良江	杉木美樹子	杉山和美	高橋健
高橋健介	坪井健爾	寺西明子	富岡陽子
長岡浩美	中川二與	仲野正英	西塚守男
橋口豊	花澤明優美	平山恵子	前沢和之
宮地里実	森田康博	米本信治	

横浜市歴史博物館30周年記念誌

令和8年(2026年)3月31日発行

編集・発行 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜市歴史博物館

住 所 横浜市都筑区中川中央1-18-1

制 作 木村こうたDesign Studio 有好まなみ 佐俣次郎
羽毛田智幸 古川恵美 仲泉剛

©2026 横浜市歴史博物館 本書の全部又は一部を無断で複製、転載することを禁じます。